

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 22025

建築物名称	川崎市上下水道局 入江崎総合スラッジセンター汚泥処理施設更新工事
建築主	川崎市上下水道事業管理者 大澤 太郎
建築物の所在地	川崎市川崎区塩浜3丁目24番1 他8筆
設計者氏名、建築士事務所名	小木 洋一郎 JFEエンジニアリング株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,260.60㎡
用途	下水処理場施設
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了予定年月	令和7年12月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、地中熱ヒートポンプ
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	川崎市上下水道局入江崎総合スラッジセンター汚泥処理施設更新工事	階数	地上5F
建設地	神奈川県川崎市川崎区塩浜3丁目24番1 他8番	構造	RC造
用途地域	工業地域、防火地域 指定なし	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2022年08月23日
敷地面積	2,400 m ²	作成者	小木洋一郎
建築面積	551 m ²	確認日	2022年08月29日
延床面積	2,261 m ²	確認者	大澤太郎



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 84%
③上記+②以外の 84%
④上記+ 84%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境: N.A. 温熱環境: N.A. 光・視環境: N.A. 空気質環境: N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

機能性: N.A. 耐用性・信頼性: 3.3 対応性・更新性: 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.7

生物環境: 1.0 まちなみ・景観: 2.0 地域性・アメニティ: 2.0

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

建物外皮の熱負荷: 1.0 自然エネルギー: 3.0 設備システム効率化: 4.6 効率的運用: 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

水資源保護: 2.2 非再生材料の使用削減: 3.3 汚染物質回避: 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化への配慮: 3.6 地域環境への配慮: 2.8 周辺環境への配慮: 3.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-川崎2017(v.3.1)

川崎市上下水道局入江崎総合スラッジセンター汚泥処理施設更新工事

22025

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策	特になし		
1 生物環境の保全と創出		1.4/4.3	1.6
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策	特になし		
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.7
Q-1 ■ 室内環境対策	評価対象外		
2 2.1 2.1.2 外皮性能		0.0/0.0	-
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備			
3.2 3.2.1 屋光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策	特になし		
1 生物環境の保全と創出		0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策	BEIm=0.64		
1 建物外皮の熱負荷抑制		3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策	特になし		
1 水資源保護		3.0/4.7	3.2
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策	特になし		
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策	特になし		
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.5/0.8	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策	特になし		
1 水資源保護		2.4/4.0	3.0
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策	特になし		
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.4
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.6
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策	特になし		
1 生物環境の保全と創出		0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策	BEIm=0.64		
1 建物外皮の熱負荷抑制		3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策	特になし		
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.7**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策	特になし		
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.2	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策	特になし		
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.8/1.3	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策	BEIm=0.64		
1 建物外皮の熱負荷抑制		3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質												2.4
Q1 室内環境												
1 音環境												
1.1 室内騒音レベル												
1.2 遮音												
1 開口部遮音性能												
2 界壁遮音性能												
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												
1.3 吸音												
2 温熱環境												
2.1 室温制御												
1 室温												
2 外皮性能			W									
3 ゾーン別制御性												
2.2 湿度制御												
2.3 空調方式												
3 光・視環境												
3.1 昼光利用												
1 昼光率												
2 方位別開口												
3 昼光利用設備					W							
3.2 グレア対策												
1 昼光制御					W							
3.3 照度												
3.4 照明制御												
4 空気質環境												
4.1 発生源対策												
1 化学汚染物質												
4.2 換気												
1 換気量												
2 自然換気性能												
3 取り入れ外気への配慮												
4.3 運用管理												
1 CO ₂ の監視												
2 喫煙の制御												

Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.4
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1	広さ・収納性			-	-			
2	高度情報通信設備対応			-	-			
3	バリアフリー計画			-	-			
1.2 心理性・快適性								
1	広さ感・景観			-	-			
2	リフレッシュスペース			-	-			
3	内装計画			-	-			
1.3 維持管理								
1	維持管理に配慮した設計			-	-			
2	維持管理用機能の確保			-	-			
2 耐用性・信頼性				3.3	0.50			3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50			
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			4.0	0.80			
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30			
1	躯体材料の耐用年数	R		3.0	0.20			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		2.0	0.20			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		3.0	0.10			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		3.0	0.10			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		5.0	0.20			
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		3.0	0.20			
2.4 信頼性				2.6	0.20			
1	空調・換気設備			3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			1.0	0.20			
3	電気設備			3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20			
5	通信・情報設備			3.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.4	0.50			3.4
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30			
1	階高のゆとり			5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ			4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30			
3.3 設備の更新性				3.0	0.40			
1	空調配管の更新性			3.0	0.20			
2	給排水管の更新性			3.0	0.20			
3	電気配線の更新性			3.0	0.10			
4	通信配線の更新性			3.0	0.10			
5	設備機器の更新性			3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出				G	W		H	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G				2.0
3 地域性・アメニティへの配慮								2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上								2.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H	2.0

LR 建築物の環境負荷低減性									3.2
LR1 エネルギー									3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H						1.0
2 自然エネルギー利用	W		H						3.0
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEI][BEIm] = 0.64					4.6
4 効率的運用									3.0
集合住宅以外の評価									3.0
4.1 モニタリング	W		H						3.0
4.2 運用管理体制	W		H						3.0
集合住宅の評価									-
4.1 モニタリング	W		H						-
4.2 運用管理体制	W		H						-
LR2 資源・マテリアル									3.1
1 水資源保護	W	R							2.2
1.1 節水									1.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用									3.0
1 雨水利用システム導入の有無									3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無									3.0
2 非再生性資源の使用量削減									3.3
2.1 材料使用量の削減	W	R							2.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R							3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R							3.0
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R							3.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R							-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R							5.0
3 汚染物質含有材料の使用回避									3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用									3.0
3.2 フロン・ハロンの回避									4.0
1 消火剤	W								-
2 発泡剤(断熱材等)	W								5.0
3 冷媒	W								3.0
LR3 敷地外環境									3.1
1 地球温暖化への配慮	W								3.6
2 地域環境への配慮									2.8
2.1 大気汚染防止									3.0
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W	H						3.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制									2.2
1 雨水排水負荷低減			R						3.0
2 汚水処理負荷抑制			R						3.0
3 交通負荷抑制			R						2.0
4 廃棄物処理負荷抑制			R						1.0
3 周辺環境への配慮									3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止									3.0
1 騒音									3.0
2 振動									-
3 悪臭									-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制									3.0
1 風害の抑制									3.0
2 砂塵の抑制									-
3 日照障害の抑制									3.0
3.3 光害の抑制									3.0
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策									3.0
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策									3.0